

# 〇さんの と二が知れた!!!



事業主インタビューvol.22は、有限会社シュネー代表の古川知也(トモナリ)君です。21歳の時に青森からやってきた僕らの同級生は、その見た目さながら、仙人の域に踏み入りつつあります。晴耕雨読——。そんな生活の彼に、僕は大きな影響を受けました。日々、畑で汗を流し、狩猟をして、彼の宿

に遊びに行けば、とても美味しいワインを出してくれます。(街で飲んでスイッチが入った時の勢いは相当なものです)

今回のインタビューでは、野沢温泉ハウスワイン特区(2020.12国税庁認定)のことで、「お金のいらない世界」について少し語っていただきました。

インタビューは2024.6.23 ペンション・シュネーにて。小雨に潤う白樺の緑を眺めながら。

NOZAWA



ペンションシュネー

古川 知也

FURUKAWA TOMONARI

Passion WINE



仙人よろしく、本質的なこと、大切なことを、ゆっくりと良い声で喋ってくれました。もしも、日々の生活がちょっと忙しくなっちゃったのなら、シュネーでワインを飲みながらボーッとしましょう。



**K:** 今月号はトモちゃん特集になってしまいました。

**T:** お願いします。

## ワインにどうやって興味持った？

**T:** ワインね、ワイン。ワインね……、ん…なんだろうな……。

**K:** いや、さっき言ってただろ！笑

**T:** (ハハハハッ、ハッ、フハハハハッは) ああ、高校ん時にね。青森(出身地)のコンビニでサントリーのシードルが売ってて。なんか酒を飲み始めた頃、酎ハイとかが苦手で。「化学的なもの」があんまり身体に合ってなかったのか、酎ハイとかが苦手だった時にシードルを飲んだら、あれ？これは旨いかも？みたいな。そんな感じ。

**K:** で、レストランは？(彼は野沢に来る前、ワインレストランでウェイターをしていた)

**T:** ああ、レストランに行こうと思ったのは……映画かな。キッカケは。

**K:** おお、なんて映画？

**T:** ホテルだったかな？THEホテル……だった気がする。香取慎吾が出てるやつ。あれ見たとき、ちょっとホテル業が面白そうだなあとって、専門学校に行って。で、ホテルやろうと思ったけれど「ただホテルだと武器がないな」とって。で、レストランがカッコいいってことになって、レストラン行って「レストランやるならワインだな」とって。そんな感じかな。で、「ワイン飲みやすいな」ってなって。



出典:「映画.com」より

## で、なんと野沢でもワイン作り？ ワイン特区だけ？

**T:** そう。ワイン特区なんだけど、ハウスワイン特区って言って、もう一個下の「構造改革特別区域法による酒税法の特例措置」っていうのだね。普通にワイン作ろうとすると、年間6,000ℓ必要なんだけど「ワイン特区」は2,000ℓ。で、さらにその下が販売は外でできないけれど100mlからでも作れる。

**K:** トモがやろうとしてる、自家製ワインをお客さんに楽しんでもらうってスタイルだね。

**T:** そうそう。その特区を野沢で取って。「ワイン特区」の2,000ℓでも行けるなと思ったけれど、宿が野沢は多くて、こう…ひとり誰かが作ってみんなが真似できるような感じにしておけば、また一つの野沢の楽しいことに繋がるかなっていう…。

**K:** 素晴らしいね。



日本の葡萄で作らないと、日本で作ってる意味ないでしょ。

**T:** もっと作ってほしいですね。皆さんも。畑も余ってるし。その畑を活用して、自分ちの宿でワイン出せれば。大体…みんな宿でしょ？宿じゃなくても、レストランでもなんでも良い。

**T:** 苗買って、普通にやるっていえば…最速3年かな。

**K:** あ、意外に早いんだね。熟成期間とかそういうのいからか。

### 野沢自体はワイン作りに向いてると思う？

**T:** うん、作って……そうだね。もしそのまま、飲める状態になるまでなら。

**K:** その…雪の下になっちゃたりしても。

**T:** うん。山葡萄、生えてるからね。

**K:** 山葡萄でやるワイン？いわゆる普通のワインは山葡萄じゃないよね？

**T:** そういうのはヨーロッパの品種が多いかな。ヨーロッパはもう、湿気がないから。ヨーロッパで作ってればいいんだよ。日本の葡萄で作らないと、日本で作ってる意味ないでしょ。ということですよ。「否定されることもあるけど、逆にありがたい。」

**K:** 実際、ワインって自分でやろうと思ったら、どれぐらいでできるの？



葡萄の実のでき始め



トモ:「ここから虫が入ったり、蜂、鳥に食べられたり、それを丁寧に抜いて、最後は熊か鹿に食べられないかの不安と戦っています。」



## トモの畑、「ほったらかし農法」についてちょっと喋ってよ。

**T:** ほったらかし、ではないですけどね。笑

**K:** どんなスタイルでやってるかってのをお願いします。

**T:** 人工物を全く入れないってことが、まず第一かな。あと、耕さない。

**K:** 耕さない？カチコチの土で良いんだ？

**T:** いや、やっこい(柔らかい)よ。耕してる土より多分、やっこい。手で掘れる。

**K:** え？その心は？

**T:** 微生物とか、ミミズとかがいて勝手に耕して良い状態にもっていつてくれている。

**K:** 表面は固いけどってこと？

**T:** 表面も柔らかいよ。まあ草生えてれば…いや、ヨモギとか、強いのが生えてても簡単に掘れるけど。草取りはしない。

**K:** 草取りはする？



↑狩猟に同行させていただきました。  
トモ:「写真同行者がいると気付かれます。いなくても気付かれます。生きるか死ぬかに互いに必死です。」

**T:** 「草刈り」はする。根っこからは基本、抜かない。だから…宿根っていうか、通年生えるヨモギだったりドクダミだったり、そういうのがあった時はたまに根っこも切ったり抜いたりってのはあるけれど、基本、抜かない。切った後のその根っこにまた良い微生物が食い込んで土をまた良くしてくれるから。

**K:** 肥料もまかない？

**T:** 肥料はまかない。今のところ何もまいていない。

**K:** それで出来た野菜ってやっぱり美味しいの？

**T:** うまい。自分でやったから余計かな。

**K:** イイコト言いましたね。笑 「濃い」みたいな？

**T:** ああ、そうだね。水もやらないからね。濃いと思う。味は。なんだろうね…「生命力」が強いのかな。水も自分で(野菜が)探しに行かないとならないからね。まあ、土の中はだいたい湿ってるんだけど。表面以外は。だから、葡萄でも、他の植物でも、周りの草を刈ってあげるタイミングがだんだんわかってきた。ここで刈っておくと、成長が良くなって、このタイミングは刈らない方が良いとか。そういうタイミングが、だんだんわかってきた気がする。



トモ:「基本は自分でやってみて、経験したことしか信じません。それでも指標となる先人の本は、経験談なのでとても参考にさせてもらっています。」

**「お金ってなんですか？」——ただの「紙切れ」と「コイン」だからね。価値なんてないんだよ。**



**オレは結構な影響受けたんだけど……トモの言う「お金のいない世界」についてお願いします。**

**T:** ふふふっ…。「お金のいない世界」ね。まず「お金ってなんですか？」から始まるよね。ただの「紙切れ」と「コイン」だからね。価値なんてないんだよ。…それよりも。まあ、お金がいないって言っても、今の世の中ムリじゃん。自分でいくらあったら十分なのかってまず、把握してないよね、みんな多分。「もっと稼ぎたい、もっと」しか思わないよね。けど「何のために稼いでるの？」って言ったら、たぶん「家族のため」とかそういうこと言うよね。

**K:** うん…。確かにそれっぽいこと言うだろうね。↗

**T:** ↘ 矛盾じゃん、そんなの。子どもと遊ぶ時間がなくて、お金稼ぎに走ってるんだったら。じゃあ…「MAXがここ」って決めただったら、休みが3日になるかもしれないし、3日になったら3日分、子どもと遊べるわけじゃん。その経験の方が、子どもにも、自分にも、たぶん……深いよね。と思ってやってるけど。みんな稼ぎたい。でも、何に使ってるかを考えないと。絶対無駄なことに使うんだよ。多ければ、多いほど。無きゃ無いで考えるからね。

**K:** めっちゃいいテーマについて言ってくれたね。もう、ここで終わりでもいいや！…素敵な世界だね。

**T:** うん。まあ全然遊んでないけど。笑

(インタビュー終わり)



**みんな稼ぎたい。でも、何に使ってるかを考えないと。多ければ、多いほど、絶対無駄なことに使っちゃう。無きゃ無いで考えるから。**



### 【インタビューを終えて……】

トモが野沢にやってきたのは、僕らが21歳の頃で、ちょうど道祖神の厄年（火祭りの松明で叩かれる年）に合わせてきたかのようにでした。当時から大変勢いの良い男で、以来、ずっと楽しく酒を飲み続けてきました。多くの時間を共にしているので、改めて彼について書こうとすると、何を書いて良いのかわ

らなくなってしまいますが……「飾らない美学」「ボーッとする贅沢」そんな言葉が思い浮かびます。そして、物事の本質がよく見えてるなぁと常々感心してしまいます。自称、人見知りですが、なかなか良い男ですので、一度彼のワインと一緒に味わってみていただけたらと思います。

ペンション  
シュネー

TEL : 0269-85-2012

〒389-2502 下高井郡野沢温泉村豊郷8276

ご予約・メール pensionschnee@yahoo.co.jp



一緒に飲みに行ってくれる方、よかったら誘って下さい。



彼が、かなりコッソリとやっているブログです。面白いです。→

ブログ  
ずくなし  
every day



ホームページ



シュネーホームページ

<https://pensionschnee.wixsite.com/mysite>



バックナンバー

# KEN TIMES インタビュー

河野謙のホームページでご覧いただけます

「野沢・飯山をメインに事業を行なっている方」にインタビューさせてもらっています。地域の皆さんがつながり合い、地元がより盛り上がっていったらいいな~と思っています。



「ぼっぼ動物病院」  
松川 恵さん



「有限会社 丸見屋商店」  
河野 晃久さん



「リラクゼーションNemu」  
福澤 美里さん



「nozowa green field」  
河野 健児さん



「やよい農園」  
滝沢 弥生さん



「and sugar」  
高坂 沙也香さん



「ambis」  
福澤 龍一さん



「翻訳家」  
辛島・ジェニファー・フランセスさん



「POWERDRIVE R117」  
庚 敏久さん



「BODY CARE SALON WISH」  
白石 里香子さん



「タイコア合同会社」  
ロビンソン・ガードナーさん  
奈津子さん



「山本園」  
山本 亮介さん  
愛さん



「野沢出張マッサージ  
サオリセラピー」  
齊藤 沙織さん



「Paint Up Sugar」  
佐藤 亮一さん



「タイ料理 クアタイ」  
市川 良樹さん  
史さん



「ひぐらし農場」  
木内 晴基さん  
(妹) マミさん



「合同会社  
MonkeyBusinessCO.」  
中嶋 サマンサさん



「Snowboarder's base  
NEO BAR」  
牧野 千尋さん



「ひなたやまデザイン」  
高野 理恵子さん



「Faith Farm」  
水野 尚哉さん



「EO service」  
上野 祐也さん



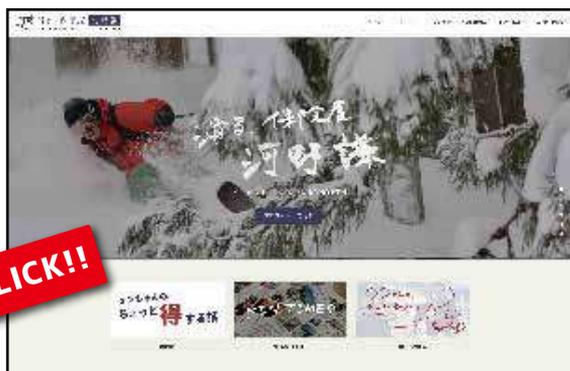
「ペンション シュネー」  
古川 知也さん



皆さんのインタビュー  
バックナンバーは、ホームページから  
ご覧くださいね!

バックナンバーは「河野謙」で検索

<https://konoken.com>





# 流れる、F1 河野謙

Kono Ken



## 河野 謙 (こうのけん)

- 1987年7月10日生まれ(卯年・かに座)
- ファイナンシャルプランナー
- 双子(弟は連)
- A型
- 三児の父(長男:2016.7/長女:2018.12/次男:2020.10)
- サイグラム/M10
- 動物占い/感情的なライオン・ゴールド
- 野沢温泉村在住(横落のFujiyoshi. ずっと地元民)



### 【学 校】

- 野沢温泉小学校
- 野沢温泉中学校
- 飯山北高等学校
- 立命館大学(経済学部・国際経済学科) ずっとスキー部(アルペン)

### 【性 格】

**楽観主義者。**小さい時からそうだったわけではない。大学ぐらいから海外に行ったり、色々な友達と付き合い中でそうになっていったと思う。**判断は早い方。**ただし、睡眠不足に陥るとあらゆる面でうまくいかなくなってしまう。仕事も遊びも、同じことを繰り返してその精度が上がっていくことに喜びを感じるタイプ。

### 遊びや日課

- スキー・スノーボード。シーズン中は週2ぐらいのペース。
- サーフィン。直江津がメイン。力強いハワイの波が忘れられない。
- 中学校の時は北竜湖でヘラブナを釣ることが何よりの楽しみだった。現在は溪流釣り。
- ゴルフ(2020年からハマリ、2021年現在、100前後をウロチョロ。斑尾タングラムがメイン。)
- サウナ。ちょっと行かないと禁断症状が出る。基本は木島平パノラマランド
- 飲酒はほぼ毎日。夕飯時には欠かせない。(ビール、日本酒、ワイン、ウイスキー)
- 睡眠重視。少しでも眠気を感じたら、可能な限りどんなことよりも最優先してまずは眠る。
- 26歳から、お祭りで猿田彦の笛をやっている。
- 消防団員。第一分団第二動力班
- 2023年からスキーJr.Jr.コーチ



### 好きな作家

村上春樹、池波正太郎、浅田次郎、野田知佑、椎名誠、伊集院静など。特に村上春樹は相当の回数読んでいる作品が多い。

### 好きな音楽

特に好きなものは90年代日本語ラップ。「BUDDHA BRAND」「キエるマキユウ」に関しては博士。ユーミン、Hi-Fi Set、ビートルズ他、ジャズもクラシックも好き。



BUDDHA BRAND

### ランクル

ランクル80(1992)。妻はランクル60(1981)に乗ってます！二人とも、だいたい愛着湧いてます。



### 仕事の変遷

スキーだけやっていた大学生活だったので、当時「こんな仕事かしたい！」というものがなく(スキーで稼いでいくほどの実力も自信もなかった)、4年のゴールデンウィーク頃から就活をスタート。

その頃、株やFXをやっていたということもあり「なんとなく金融が面白そうかな」という思いと、長野県出身のスキー部の先輩が、卒業後そこで活躍していることを知っていたので、地元の金融機関である「株式会社 長野銀行」に入行。

入行後一年は、掃除、雪かきの毎日。ちょっと退屈だったが、雪かきに関しては豪雪地帯・野沢温泉出身の実力をここぞとばかりに発揮し、銀行の敷地内だけでは物足りず、勝手に近所の商店の雪かきまでしていた。

そして楽しくお茶をいただき、預金までしてもらっていた。お客さんと心が通じる、「河野君だから」で任せてもらう。これが営業か……と、その時に思った。

2年目からは松本の支店で営業係。預金・住宅ローン・投資信託・保険を主に販売。最初はどのようにいいかわからず、お客さんの家でお茶をもらってばかりいたが、ある日突然自分の中で「何か」が解り、そこからは営業が楽しくて仕方なくなった。

お客さんは「その先に何を求めているか。」これが本質。

2014年(銀行4年目26歳の時)長野銀行出身の、尊敬する先輩に声をかけてもらったことがきっかけで、現在の会社に転職。ずっと地元だけで仕事ができる。本当に自分が好きで、お客さんにとって100%いいものだけを案内できるということが最大の魅力だった。

現在は「KEN TIMES」も発行。地元の事業主のインタビュー、お得な金融情報、日々の日記を掲載している。お客さん同士が繋がりが、地元がどんどん盛り上がっていくことが何よりの喜び。

